山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和８年１月１日～令和８年11月１日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和７年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令　和　８　年	335	52	5	157	152	366
令　和　７　年	347	48	4	166	163	381
前 年 同 期 比	−12	4	1	−9	−11	−15

２　山域別発生状況

区　　分		件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	60	17.9%	9	0	31	26	66
	後立山	87	26.0%	17	2	32	52	103
	その他	38	11.3%	5	0	21	14	40
計		185	55.2%	31	2	84	92	209
中央アルプス		27	8.1%	1	0	13	15	29
南アルプス		9	2.7%	2	1	4	2	9
八ヶ岳連峰		33	9.9%	5	0	15	15	35
その他の山岳		81	24.2%	13	2	41	28	84
計		335		52	5	157	152	366

３　態様別発生状況

区　　分	件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	93	27.8%	25	0	72	0	97
転　　倒	76	22.7%	0	0	76	0	76
病　　気	27	8.1%	10	0	0	17	27
道 迷 い	31	9.3%	0	0	0	41	41
落　　石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪　　崩	3	0.9%	2	0	1	0	3
落　　雷	2	0.6%	0	0	2	0	2
疲労凍死傷	48	14.3%	3	0	0	53	56
不明・他	55	16.4%	12	5	6	41	64
計	335		52	5	157	152	366

４　男女別・年齢別比率

区　分	男性 死者	不明	負傷	無事	計	（人）比率	女性 死者	不明	負傷	無事	計	（人）比率	男女計 人数	比率
１９歳以下	1	0	1	6	8		0	0	1	4	5		13	
２０　代	2	0	6	18	26	49	0	0	2	5	7	27	33	76
３０　代	1	1	5	8	15	20.2%	1	0	5	9	15	22.0%	30	20.8%
４０　代	5	0	12	12	29	80	1	0	3	3	7	40	36	120
５０　代	6	0	26	19	51	32.9%	1	0	21	11	33	32.5%	84	32.8%
６０　代	15	2	20	24	61	114	3	0	21	8	32	56	93	170
７０以上	15	2	21	15	53	46.9%	1	0	13	10	24	45.5%	77	46.4%
計	45	5	91	102	243		7	0	66	50	123		366	
比　率	66.4%						33.6%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（10/26～11/1）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
10月28日	小川山	女	50	負傷	転落	2人パーティで廻り目平周辺のマラ岩を登攀中、何らかの原因で、転落、負傷
10月29日	北アルプス 前穂高岳	男	50	無事救出	疲労	10/26単独で上高地から入山し、前穂高岳から上高地へ向けて重太郎新道を下山中、疲労により、行動不能
10月30日	八ヶ岳連峰 北横岳	男	78	無事救出	道迷い	単独でピラタス蓼科から入山し、北横岳から亀甲池へ向けて登山中、道に迷い、行動不能
10月31日	前掛山	男	49	負傷	転倒	2人パーティで前掛山から賽の河原方向へ下山中、つまずき、転倒、負傷
10月31日	北アルプス 北穂高岳	女	53	無事救出	その他	単独で涸沢から北穂高岳へ向けて登山中、北穂高岳南稜付近で、技量不足により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、5件の山岳遭難が発生しました。上空に強い寒気が流入し、北アルプス等の高山帯をはじめ、志賀高原や菅平などでも積雪を観測しました。高山帯ではすでに秋山から冬山へと季節が移り変わり、場所によっては、アイゼンやチェーンスパイク、ピッケル、ヤッケなど冬山装備の携行が必須となります。前穂高岳、北横岳、北穂高岳遭難の、疲労や道迷いの背景には、吹雪による視界不良や気温低下、登山道への降雪等の環境的な要因に加えて、体力・装備・技量不足等の人的な要因が潜在しています。遭難のリスクが高い悪天候時の入山は避け、季節や行程に適した装備品の携行と体力の調整をお願いします。

【クライミング中の事故にも注意】

県内の岩場では、秋に入り、クライミング中の事故が複数件発生しており、懸垂下降時のトラブルや登はん中の転落などが散見されます。屋外の岩場は、基礎的なロープワークや支点構築・懸垂下降技術等も必要となるため、クライミング能力だけでなく、岩場でのロープ技術等についても習熟が必要です。また、岩場周辺の自然環境にも気を配り、倒木による事故等にも注意しましょう。